

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要票

作成日 平成 20 年 11 月 24 日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101363
法人名	有限会社 シルバーケア
事業所名	グループホーム春日苑川内
所在地	徳島県徳島市川内町沖島273番地 (電話) 088-665-7710

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 11 月 15 日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤:16人、非常勤:8人、常勤換算:すみれ7人 さくら6.5人 うめ6.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り	
	1 階建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	水熱光費:12,000円、その他:実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		-	円

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 1 日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名		
要介護3	10 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.4 歳	最低	60 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 真鍋医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

“我が家のような環境で暮らす”という想いで平成15年に開設され、3ユニットとも木造平屋建てで、広い敷地に前庭・中庭・菜園等があり、ゆとりが感じられる。開設当初から「地域の中で当たり前の生活」を理念として、地域との関わりを大切にしてきており、地域に根付いたホームとなっている。また職員は利用者の“できること探し”に取り組み、一人ひとりの秘められた力を引き出した一心で関わっている。その関わりの中で仕上げられた作品は額に入れ、ホールや廊下などの壁面にあふれんばかりに展示されている。またユニットごとに個性豊かな実践をされており、お互いに研鑽し合いながら質の向上を目指されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の課題であった「同業者との交流」、「災害対策」は改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	それぞれのユニット毎で管理者と職員が何度も話し合いを重ね作成されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催されている。内容は報告事項(利用実績と行事への取り組み)については毎回報告し、ユニット毎で持ち回りで取り組みの発表も行っている。定例メンバーは民生委員・婦人会長・町内会長や徳島市地域包括支援センター職員と利用者・利用者家族等の参加となっている。参加された方々からの意見やアイデアをいただき、それらを日々の暮らしに取り入れて支援に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置している。また苦情相談機関については重要事項説明書に明示している。苦情相談窓口担当職員は常に話してもらえるように家族に声かけしている。出された苦情に対しては検討会議で十分話し合いをし、翌日には具体的対応ができるように取り組んでいる。それらの事項は記録に残し再発防止につなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当初から地域の方々との関わりを持つことを理念としており連携は十分とれている。町内会にも加入し、散歩や買い物などの時には出会う人と挨拶を交わっている。また地元の人を職員に採用したり、ボランティアとして出入りしてもらったりして交流を深めている。町民運動会や文化祭に参加し、文化祭ではホームをアピールできる機会とらえて利用者の手作り作品を多く出展し、認知症の方々への理解が深められるように取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から「認知症であっても地域の中でひとりの人として当たり前の生活ができるように支援します」という地域の中で暮らすことを大切にしたい理念を掲げている。その理念を玄関や事務室、また廊下などの目に付く場所に額に入れて掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に理念を唱和し、日々のサービス提供に反映されるように取り組んでいる。また月1回開かれる職員会議では振り返りを行い、理念の実践にむけての徹底を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入するなど地域の一員として関わりを持っている。近くの中学校や幼稚園などとも交流している。また町の運動会や文化祭など地域の行事にも参加し交流を図っている。特に文化祭には利用者の手作り作品を出品しており、作品を通して地元の人々との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については、ミーティング時や職員会議で全職員に周知し、さらにそれぞれのユニット毎に話し合いをして取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催されている。内容は報告事項(利用実績と行事への取り組み)については毎回報告し、ユニット毎で持ち回りで取り組みの発表も行っている。定例メンバーは民生委員・婦人会長・町内会長や徳島市地域包括支援センター職員と利用者・利用者家族等の参加となっている。参加された方々からの意見やアイデアをいただき、それらを日々の暮らしに取り入れて支援に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>制度上の疑問点などを相談するなど、市町村と連携してサービスの質の改善に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には健康状態、金銭管理状況や暮らしぶりを報告している。県外の方には毎月、近況報告を文書で伝えている。体調の異変時にはその都度電話等で連絡を取り対応している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情処理のポスター掲示と意見箱の設置をしている。重要事項説明書に苦情申し立て窓口を明記している。家族から寄せられた意見等は職員間で話し合い、運営に反映できるようにしている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の退職や法人間の異動はあるが、利用者に不安を与えないように、最小限にとどめ、ベテラン職員がカバーしてダメージを少なくする配慮をしている。また3ユニット間で、職員は常に行き来しており、利用者と日常的に顔馴染みの関係を築くようにしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修は参加の希望や必要性に応じて勤務調整をし、受講できるように配慮している。出席者は職員会議や研修内容によって運営推進会議で報告するようにしている。しかし、研修計画は立てられていない。</p>	○	<p>職員研修計画をたて、段階に応じて計画的に職員の育成に取り組まれるよう期待したい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会徳島県支部に加入し、研修や見学、相互評価事業などにも参加し交流も図られている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新しく入居される利用者には、本人や家族の方々に見学してもらうなど、納得されてから徐々に馴染めるように無理強いせずにサービス利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者のできることに探しに取り組み、今まで気付かなかった能力の発見があり、感動を得ることがある。また利用者と一緒に調理や掃除、手芸や再演作業をしながらたくさんのかんことを学んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	加齢とともにできなくなることが増えていく中で、失望しないで過ごせるように思いや意向の把握に努め、一人ひとりに合わせた暮らし方を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見・希望を取り入れると共に関係職員等で話し合いをして、個別の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間及び状態の変化がみられたときに見直している。モニタリングは月1回実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、24時間いつでも医師と連絡可能な体制の確保ができています。また欠員があったときはショートステイの受け入れも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医の受診ができるように支援している。また協力医療機関から週2回の訪問診療があるため、適切な医療が受けられるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のケアについては、看取り体制を整えることが契約書に明記され、方針の共有もできている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように全職員が言葉がけ等に気をつけて支援している。また書類についても鍵のかかる書庫へ保管しており、個人情報等が漏れないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や散歩への参加などは一人ひとりの思いや体調に合わせて、自己決定できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入や皮むきなど、利用者一人ひとりの力を活かしながら、できることはしてもらっている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで会話を楽しみながら一緒に食事をしている。また「すみれユニット」は月1回喫茶店を開き、利用者は開催を心待ちにされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望にそって支援している。夜間も希望される場合は対応している。また介助の必要な人は、車椅子のまま浴室まで入れ、檜の浴槽の両側から介助できるようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者本人や家族から聞いた生活歴や趣味などの情報をもとに、毎日の暮らしの中で一人ひとりのできること探しをして、生きがいや喜びにつながる支援をしている。年齢を重ねてもできることが残されており、その力を活かせる取り組みをしている。(掃除、洗濯物たたみ、食事づくり、裁縫、体操など)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食後に散歩をする人、庭の植え込みの木の葉を取りに行く人また玄関前の広い前庭に置かれたベンチで外気に触れる人、テラスで過ごす人など思い思いに戸外へ出る支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず、自由に出入りできるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施している。地震時の訓練にも取り組んでいる。災害マニュアルも作成し、運営推進会議で話し合い地域の協力も依頼し、消防署や警察との連携も取れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分補給量などは個別の記録用紙があり、毎回確認し記録できている。健康診断で特に支援が必要となった人は医師の指導を受けている。また同法人経営の他のグループホームの栄養士が献立や栄養バランス等について指示や助言をしてくれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、ホールなどの共用空間には鉢植えの花や利用者の手作りの造花が置かれ、また秋の風景のちぎり絵や習字などが壁面いっぱいに飾られており、ほのぼのとした温かさが感じられる。木のぬくもりと明るい日ざしがあり、居心地よい空間づくりがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室のどちらかを選んでもらい、その人に合った居室づくりがされている。それぞれ使い慣れた椅子や家具を持ち込んだり、お仏壇を置く人や、家族の写真を飾っている人など思い思いに自分らしい暮らしができるよう配慮している。		